

「業務のオンライン化で生産性 UP！」

佐賀県、吉野ヶ里遺跡で有名な神崎市に在る株式会社 大橋（社長：大橋弘幸氏）は、環境機器、農林業機械、産業機械の研究開発及び製造・販売・輸出入業務を手掛ける、従業員約 40 名の会社です。弊社は、国内の農林業関係の粉碎機・チップーシュレッダー業界において、その商品力や生産、販売体制に特徴を生かして大きなシェアを占めています。



（千代田町にある本社）

国内需要の未来を見据えてフランスなどへの海外展開を進める中で、製造をはじめとして、営業や開発など幅広い経験や知識・技術・技能を身につけた人材を一層求める必要性が高まり、人材育成への取り組みを再構築する機会が発生しました。

今回、生産性向上支援訓練の紹介を受け、今後の継続的な人材育成環境を整備するために人材開発支援助成金の申請手続きのサポートをいただく中で、まず手始めに職場内の情報の共有化を最優先の課題から、社員の IT スキル向上につなげようと考え、IT 活用力セミナーの「ビジネス文書作成術」（6H）と「表計算ソフトの業務活用」（6H）を連続して受講することとなりました。



（事業内職業能力開発計画の作成）

併せて、販路は国内に及ばず東欧、東南アジアとグローバル化が進み、受発注業務でもオンラインの比重が日毎に大きくなっており、対応できる人材を全体に浸透させることを希望したところ、メール文書等のカリキュラムを「ビジネス文書作成術」に取り入れていただきました。

弊社の強みである、自社一貫体制とマーケットインに対応した製品バリエーションの豊富さと各担当者のフットワークの良さに加えて生産性向上支援訓練で学んだことで、社員の個々の要素をブラッシュアップさせる人材育成に大きな期待を寄せています。



（主な商品である「樹木粉碎機」）

「ビジネス文書作成術」と「表計算ソフトの業務活用」の各教材は、日常、弊社が使用している文書フォーマットや各種の伝票類を当日の講師が事前に整理してポイントを解説するだけにとどまらず、社内情報の共有化をイメージさせる内容となりました。

受講者からは、「明日の業務から役立てることができた。」「今まで使えていなかった各機能を利用して分かりやすい資料作りが出来るようになった。」との声もあり、クラウドによる情報の共有化に向けて前進したと感じています。

会社は、今後の販路拡大に向けて、営業専門要員とサービス営業要員の両スキルを兼ねた人材育成を目標に、マーケティング分野の生産性向上支援訓練コースの受講を視野に入れていきます。また、粉碎機のバリエーションの豊富さを紹介するための海外展開を意識したウェブサイト作りやクラウド活用の研修も情報の共有化を推進するために次のステップとして計画したいと考えています。